

「千葉県立中央博物館みらい計画（案）」に対する意見と県の考え方

千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

- 1 パブリックコメント実施期間 令和6年2月15日（木）～3月7日（木）
- 2 意見提出者数（意見の延べ件数） 159人（448件）
- 3 提出された意見の概要と県の考え方

※提出された意見について、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。

また、同内容の意見についてはまとめさせていただきました。

※複数の理由から意見が述べられている場合は、意見の概要を分けて掲載しています。

No.	御意見の概要	同趣旨の 意見数	県の考え方
1 これからの県立博物館について			
1(1) 地域館について			
1	移譲や統廃合の成果だけを押し出すのではなく、集約化のメリット・デメリットが明確に議論すべき。分館の廃止・移譲理由を明確に述べるべき。	3	令和2年9月策定の「千葉県立博物館の今後の在り方」（以下「在り方」という。）において、中央博物館は地域館の機能を集約し、知の創造拠点としての役割の強化を図ることとして整理されています。
2	現代産業科学館は、引き続き県営での、資料収集展示を続けてほしい。	1	「在り方」に基づき、地元自治体と協議しながら今後の在り方を検討してまいります。
3	関宿城博物館は、運営主体はNPOや市町村への譲渡で問題ないので、現地存続してほしい。	1	
4	人口減少で市町村の施設の中には存続が懸念されるようなものがある現状かつ災害リスクを考慮すると、県有施設を手放すべきではなく、むしろ体制強化すべき。地域の文化財（自然誌資料を含む）の継承は国として重要な課題であり、県だけで取り組むものではない。	5	県有資料を安全かつ確実に保管するため、中央博物館に機能を集約し、体制を強化することとしています。また、あらゆる主体との連携やデジタル技術の効果的な活用を行うこと等により、全県民と博物館が協働していけるよう取り組んでまいります。

5	新たな資料を収集するのであれば、まずは市町村に移譲した旧収蔵資料を引き取り、コレクションを復活させるべき。	2	本計画を踏まえ、今後、コレクションポリシーの見直しを行う中で検討します。
6	この計画（総合博物館化）は他県にも影響する可能性があるため、自然史博物館の機能の衰退を招くことがないように、細心の注意を払ってほしい。	1	県立の総合博物館として、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
1(2)廃止・移譲する地域館の資料について			
7	分館を廃止する場合、県が所有すべき資料やテーマはしっかり引き継いでほしい。資料やテーマ次第では、その主題に重点を置いている施設に引き継ぐことも検討すべき。	2	県が所有すべき資料やテーマを整理した上で、今後の保管先を関係者と協議していきます。また、県が所有すべき資料やテーマはしっかり引き継ぎます。
8	「廃止・移譲する地域館のテーマを引き継いだ資料収集を継続」とあるが、地元にも担ってもらうべき。	1	県有資料を安全かつ確実に保管するため、中央博物館に機能を集約し、体制を強化いたします。また、あらゆる主体との連携やデジタル技術の効果的な活用を行うこと等により、全县民と博物館が協働していけるよう取り組んでまいります。
9	分館等に移譲する際はその後県と市町村が一体となってミュージアムサービスのエリアマネジメントを行っていく連携体制を整えてほしい。	1	本計画2-3-3「取組の方針」において、今後の取組を進めていく上で大切にしている価値観として「中央博物館からつながりの輪を広げる」を掲げており、この価値観のもと、連携してまいります。
1(3)その他			
10	「山の博物館」を早期に完成させて千葉県に自然に根ざした海、山、総合の自然博物館の連携が可能にしてほしい。	3	かつて「房総の山の自然に直接触れて学ぶ場」として建設の構想のあった山の博物館（仮称）については、現在では「房総のフィールド・ミュージアム」として実施しております。
11	「千葉県酪農のさと」を本計画に含むべき。対象としないのであれば、理由を説明すべき。	1	本計画は、千葉県教育機関設置条例で定められた美術館を除く県立博物館を対象にしております。

12	チバニアンだけの博物館もほしい。	1	チバニアンについては、中央博物館において常設展示しております。なお、市原市において、チバニアンを紹介する施設を建設予定です。
13	令和2年からの経緯は一度棚上げにし、千葉県独自の魅力ある博物館像を1から検討する時間が必要ではないか。	1	「在り方」の策定にあたり、検討済みであり、令和2年以降の社会情勢の変化を受けての検討は、本計画の第1章で整理しました。
14	海の博物館への強化が全く足りていない。	1	本計画を踏まえ、取組を強化してまいります。
2 これからの中央博物館について			
2(1) 人文系の機能集約・強化について			
15	「自然と歴史」に「文化」を加味する趣旨に賛同。	8	県立の総合博物館として、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
16	自然系と人文系が良く理解し合い、互いの長所を伸ばしていくことが大事。	3	
17	千葉県にはすでに国立歴史民俗博物館があるので、この博物館との違いを県民にどう示すかという課題がある。	1	本計画2-3-2「目指す姿」にあるとおり、県立の博物館として「千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館」と「千葉から世界を拓く博物館」を目指してまいります。
18	テーマ等を変更する必要はなく、現行のままでよい。	16	県立の総合博物館として、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
19	博物館はオールマイティより深く網羅されている方がよい。自然系の研究・地域との連携等の長所を伸ばすことを主軸としてほしい。	5	
20	中央博物館に人文系を集約する必要はなく、自然系に特化すべき。	31	

21	中央博物館には、自然系の博物館のセンター的役割と、人と自然の関係という視点から歴史・文化の情報を集約する機能を強化することが求められる。	1	県立の総合博物館として、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
22	「自然・歴史・文化」という後ろ向きのテーマに変更する必要性と根拠の説明を求める。	1	
23	県内唯一の総合的な自然誌博物館として、人材や設備整備を進め、調査や資料収集が継続されるようにしてほしい。	2	
24	名称を自然誌博物館と変更することを提案する。	13	
25	人文系は別に新設するか、房総のむらや文化財センター等別の生涯学習関連施設を利用、拡充するのがよい。	11	
26	自然に特化し、国立歴史民俗博物館等の人文系施設と密に連携する形がよい。	4	
2（2）人文系機能集約により懸念されることについて			
27	自然誌部門の極端な縮小に反対。人文系研究の機能不全が自然史分野に波及するかが不明瞭。明確な回答を求める。	7	自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化することで、県立の総合博物館としての機能を強め、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
28	自然分野の体制と施設を維持もしくは強化し、その発展を保障すべき。	31	
29	差し引いて調整するのではなく、これまでの活動を充実した上で、上乘せした「未来」形を実現してほしい。	5	

30	生態学の分野を自然保護課に統合し、考古学の収蔵品は埋蔵文化財センターで一括収蔵、歴史学の古文書の大部分を県立図書館で保管してはどうか。	1	本計画2-3-4「取組の方針に沿った事業展開」【1】収集・保管において、5つの柱に沿って資料の適切な収集・保管に取り組んでまいります。
3 計画全体について			
3 (1) 計画全体について			
31	計画の方向性に賛成。	3	本計画に基づき、目指す姿の実現に取り組んでまいります。
32	今後も国内外や ICOM の考え等の積極的に情報収集して、状況把握を行い、個々を検証・評価した上でビジョンの構築をしてほしい。	1	引き続き国内外の動向を踏まえ、取り組んでまいります。
33	博物館の将来像を明確に社会に示して、その機能の充実が期待できる計画の提案を望む。	1	今後策定・公表する実施計画（5年間）において整理してまいります。
34	本計画が実質的に履行されることを強く望む。	1	本計画を踏まえた具体的な取組については、今後策定する実施計画（5年間）でお示しし、毎年度進捗管理等を行ってまいります。
35	よくできた計画だが、開館当初から館の目的と性格を表現するために使われてきた「自然誌」という概念にすべて包含されている内容かつ教科書的に理想を羅列しただけに留まっており、特に新しいことは何もない。	1	
36	植物生態、動物生態の2分野は博物館業務には向かないので、廃止した方がよい。	1	本計画2-1「中央博物館の概要」の特徴にあるとおり、国内有数規模の多彩な専門性をもつ総合博物館として活動してまいります。
37	交通手段を改善してほしい。「文化」機能の拡充については、近隣の千葉市郷土博物館や千葉県文化会館との連携を含めて計画するとよい。	1	今後の取組の中で参考とさせていただきます。

3 (2) 求める機能・役割について			
38	より魅力的でオープンな雰囲気の開かれた博物館を希望。	4	本計画2-3-2「目指す姿」において、県民とともに開かれた博物館を目指してまいります。
39	研究や資料収集を含めて県民が主体であることを意識すべき。	1	本計画1-4「これからの県立博物館」の目的の「醸成する」という文言を「育む」に変更しました。 また、本計画2-3-2「目指す姿」の「千葉から世界へ拓く博物館」の説明文のうち、「その成果を還元することで」を「開かれたシンクタンクとなることで」に変更しました。
40	県民とともに考え行動するシンクタンクとして、地域振興や防災、様々な課題解決を支える情報・人材拠点としての機能を充実させること。	3	本計画2-3-2「目指す姿」のとおり、情報・人材拠点としての機能も充実させていきます。
41	他の博物館にもない自然の成り立ち（歴史を含む）を解き明かし、そのプロセスが分かるような形で発展させてほしい。	1	今後、展示の内容を検討する際の参考とさせていただきます。
42	国内有数の研究者を擁する施設としての先進的な取り組みをしてほしい。	1	本計画2-3-2「目指す姿」において、最先端の視点で活動することとしており、今後も先進的な取組を行っていきます。
43	ネイチャーポジティブに対応し、生物多様性保全や地球環境問題等に関する分野を強化し、県民のサイエンスリテラシーが上がるような場となり、その啓蒙活動を支えてほしい。	6	総合博物館として、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
44	敷地内の自然更新も手がけて欲しい。	1	今後策定する施設整備計画において、検討してまいります。

45	千葉の「自然と歴史、文化に関する資料」と言う漠然とした資料収集蓄積ではなく、人と自然との関わりから生まれている房総半島の生物史形成のための歴史文化情報蓄積と収集が必要。	1	本計画を踏まえ、今後、コレクションポリシーの見直しを行う中で検討します。
46	千葉県環境生活部自然保護課と連携して、高宕山自然動物園を域外保全施設としてさらに活用し、千葉県に生息するニホンザルの保全と生物多様性を支える計画を組み込んでいただくことを希望。	1	県の施策として取り組む中で、関係部局と協力してまいります。
47	貝塚出土標本を一括して収蔵・管理・研究する機能がないので、今後の検討課題に加えてくれるよう要望。	1	人文機能の集約強化の中で、検討してまいります。
48	市町村立・私立の博物館を束ねる県の役割がますます重要となることを認識し、県庁内の体制も充実させることを望む。	1	本計画2-3-5「運営体制」の今後の2-①②、5-③で記述したとおり、体制強化を進めてまいります。
3 (3) 不足している視点について			
49	当該自治体の外に向けた活動によって成果を大きくするが、そのような視点が不足。	1	本計画2-3-2「目指す姿」の「国内外」という文言に県外への活動も含めています。
50	SDGs と教育普及についてももう少し強く明文化すべき。	1	本計画2-3-3「取組の方針」において、「未来へつなげる」を1つの視点として掲げており、事業展開すべての項目においてSDGsの視点がかかります。具体的な取組については、今後策定する実施計画（5年間）において整理してまいります。
51	インターネットでほとんどのことがわかる時代にどうやって県民の足を博物館に向かわせるか？という観点からもよく考察する必要がある。	1	本計画2-3-3「取組の方針」の大切にする価値観にあるとおり、資料やフィールドを大切にしております。

52	ターゲット層を明確にすべき。	1	今後の取組において参考にさせていただきます。
53	ダイバーシティ・インクルージョンの視点が不十分。	1	本計画1-3「現状と課題」の【3】展示・教育普及の「不十分な点・問題点」に「あらゆる人々に配慮した設備・展示が不十分」と追加しました。具体的な取組については、今後策定する実施計画（5年間）において整理してまいります。
54	県内在住の社会人あるいは学生との接点が見られない。	1	本計画1-3「現状と課題」の【3】展示・教育普及の「あらゆる人々」に含まれております。
3（4）計画の具体性について			
55	抽象的過ぎて具体性に乏しく、コメントしにくい。誰に意見を求めているのかも曖昧。これでは評価も検証もできない。	13	本計画は、中央博物館の今後の運営指針を示すものであり、具体的な取組については、今後策定する実施計画（5年間）において整理してまいります。
56	一目で未来像がわかるようビジュアルな図で示すべき。	2	最終ページに追加いたしました。
4 社会環境の変化や現状と課題について			
4（1）全体について			
57	現在の社会課題は、もっと大きなものを、焦点を絞って取り上げるべき。	1	今後の取組を検討するにあたり、現状と課題は丁寧に検討しました。
58	現状分析が不十分。	10	「在り方」にて詳細な分析は実施済みです。
59	「新たなニーズ」を示した上で、現状をどのような課題として認識し、どのように解決すべきかが明確になるよう整理すべき。	1	本計画1-3「現状と課題」について、新たなニーズが先にくるように変更し、「できたこと」を「これまでの実績」、「できなかったこと」を「不十分な点・問題点」に変更しました。
60	生物多様性の保全は最も強力に取り組むべき課題と思うが、全く触れられていない。	1	本計画2-3-2「目指す姿」のとおり、「千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館」として取り組んでまいります。具体的な取組については、今後検討してまいります。

61	<p>収集・保管の「社会情勢の変化に伴う新たなニーズ」は、「●市町村立博物館等の増加→市町村立博物館と県立館との役割分担の明確化」ではなく、「●市町村立等博物館の機能縮小・閉館→管理が困難となった収蔵資料の保全・受入」とした方が、今後の県立博物館が担う役割として重要。</p>	1	<p>本計画1-2「社会情勢の変化」の(2)千葉県博物館を取り巻く環境の変化に、「(平成20年代以降緩やかに減少)」という文言を追加しました。</p> <p>機能縮小・閉館する市町村立博物館の資料等については、本計画1-3「現状と課題」の【1】収集・保管における「社会情勢の変化に伴う新たなニーズ」の人口減少・少子高齢化によるニーズとして記述した地域の資料(個人や学校等)で所有しきれなくなった資料の継承に含まれています。”</p>
62	<p>第2章に、これまでの実績や、中央博物館を取り巻く社会環境の変化と現状、社会的課題などの議論がない。</p>	3	<p>第1章の現状と課題は中央博物館を包括したものであるため、第2章で再整理はいたしません。</p>
4 (2) 調査研究について			
63	<p>「職員の専門性を活かし、様々な分野のオリジナリティの高い展示や行事の実施に貢献し、科学発展にも寄与するような学術研究の継続」とあるが、科学発展を副次的な効果と位置づけるように見える上記の方針は誤った施策を誘導する危険性があるため再考していただきたい。</p>	1	<p>「様々な分野のオリジナリティの高い展示や行事の実施」については、本計画1-3「現状と課題」の【3】展示・教育普及の記述と重複するので、表記を削除し、「科学技術の発展に寄与する職員の高度な専門性を活かした研究」に変更しました。</p>
4 (3) 展示・教育普及について			
64	<p>地域連携について、主に他の博物館との連携しか書かれておらず視野が狭い。博物館以外の団体との連携は極めて重要。</p>	1	<p>本計画1-3「現状と課題」の運営体制において、「継続・拡充すること」に市民団体という文言を追加しました。</p>
65	<p>「フィールドミュージアムの活動について統制がとれていない」とは、何を意味しているのか理解できない。</p>	1	<p>本計画1-3「現状と課題」の運営体制及び地域連携において、該当文章に「統一された方針がなく」を追加しました。</p>

66	「展示内容が陳腐化」との課題があるが、展示内容は今でも先進的。	2	今後、施設整備計画を策定する中で、展示内容についても整理してまいります。
67	県立博物館に行ったことがない県民が多いのは、教育委員会や基礎自治体である各市町が県立博物館を使えていないことも課題。小中学校の教育活動の一環としてより一層の積極的利用を行う必要がある。	1	本計画1-3「現状と課題」の【3】展示・教育普及にあるとおり、学校教育支援を継続・強化してまいります。
4 (4) 運営体制について			
68	施設が老朽化するまで、修繕できなかったことが問題。	2	本計画に基づき、施設整備計画を策定します。
69	十分な人手と予算の確保が課題ではないか。	4	本計画に基づき、取組んでまいります。
70	研究職でありながら研究能力の評価をしない人事配置や館長に研究機関のリーダーの資質がなかったことが問題ではないか。	3	
5 基本コンセプト、目指す姿について			
71	「拓く」と言う漢字をあてるのは、文法上、明らかに間違いであると思う。目指す姿の「千葉から世界に拓く」は、主語が無く、文章として意味がわからない。	1	「拓く」とは、新しい可能性や進歩を創り出し、未来の発展や進化を促進することを意味します。将来の見通しや状況を考慮し、革新的なアイデアや行動を通じて新たな道を開拓し、社会や世界の変化をもたらすことを目指し、「拓く」という漢字を使用しています。
72	地域のことに研ぎ澄ますことを第一にしてほしい。	3	本計画2-3-2「目指す姿」のとおり、「千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館」を目指してまいります。
73	ミュージアム界を牽引していく使命を体現すべく、みらい計画（将来ビジョン）の構築をお願いしたい。	1	本計画2-3-1「基本コンセプト」及び2-3-2「目指す姿」にあるとおり、国内外の博物館を牽引することを目指してまいります。

6 取組について			
6 (1) 全体について			
74	博物館法改正に伴う付加項目はあくまでも努力義務であり、博物館本来の使命を損ねて迄実施する必要はない。今後も収集・保管、調査・研究、展示・教育普及を今後も基盤として考えて頂きたい。	8	本計画1-4「これからの県立博物館」にあるとおり、収集・保管、調査・研究、展示・教育普及を根幹としつつ、博物館法の改正に努力義務となった3項目を意識する視点とした活動を展開してまいります。
75	収集・保管、調査・研究、展示・教育普及の3つが全て均等に行われるべき。	1	
76	これからも千葉県の基礎研究を担っていく研究機関としての役割を果たしていただきたい。	2	
77	安易な観光資源化やグローバル化ではなく、生活文化や観光、国際化といった方向が拡充されることを期待。	1	博物館法の改正の視点から、地域振興にも貢献してまいります。
78	力を入れるべきテーマはたくさんあるので、どれが世界的に発信するのに重要か検討しなければならない。	1	今後の取組の参考とさせていただきます。
6 (2) 収集・保管について			
79	「人文系を中心に全体のコレクションポリシー（収集方針や基準）の見直し」とあるが、分野横断的な活動を振興するためにも、人文・自然を両立していけるような、総合的なコレクションポリシーの見直しを行うべきではないか。	1	本計画1-3「現状と課題」の【1】収集・保管及び2-3-4「取組の方針に沿った事業展開」の【1】収集・保管の該当箇所を「自然系、人文系それぞれの特性を活かした全体的な」に変更しました。

80	「自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料も収集保管」は「自然誌科学、生態・環境科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、総合的研究に関連した資料も収集保管」にしてはどうか。	1	生態・環境科学は、自然科学の1つとして考えています。
81	災害時の資料の緊急避難・救済・修復のための施設は県として是非とも設置が必要。災害時の中央館の機能として、千葉県として、実効性がある独自の方法を検討・実施することを目標として明記し、別途広範な意見募集・専門家や大学への提案募集を行って実質化してほしい。	2	本計画2-3-5「運営体制」にあるとおり、非常時の博物館資料の救済体制の強化、施設の整備してまいります。
82	モノ化されにくい人間の「記憶」や「物語」、「音」「映像記録」などの「出来事」「コト」レベルの収集・保存に今後も力を入れてほしい。	1	本計画を踏まえ、今後、コレクションポリシーの見直しを行う中で検討します。
83	他館や市町村が有する資料のデジタル記録を進め、収蔵資料から供用資料へと価値を高めてほしい。	1	本計画2-3-4「取組の方針に沿った事業展開」の【1】収集・保管において、「情報をつなげる」柱の中で取り組んでまいります。
84	情報の一元管理は県庁サイドが県の情報管理システムの一環で実施すべきではないか。	1	県の情報管理システムと整合性をとりながら、進めていきます。
6 (3) 調査・研究について			
85	2-3-4の【2】調査・研究において自然科学・人文科学の両分野の連携とは具体的にどのようなものか？	1	本計画2-1「中央博物館の概要」の特徴にあるとおり、国内有数規模の多彩な専門性をもつ総合博物館として、分野横断的に研究等活動を行ってまいります。

86	「自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した研究機能の強化」は「自然誌科学、生態・環境科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、総合的研究機能の強化」にしてはどうか。	1	生態・環境科学は、自然科学の1つとして考えております。
87	人命や財産に影響が及ぶ災害を防ぐための地層、地形、生物相等に残された自然攪乱等の防災の基礎になる地道な研究を実施してほしい。	1	今後の取組の中で参考とさせていただきます。
88	生態園では生物種の保護管理及び生態系の保全再生の研究を推進してほしい。	5	
89	生態園は、案内ツアーを大学生や研究生（院生）などプレ専門家向けにやると共に、研究にも門戸を開いて欲しい。	1	
90	千葉県の自然保護・環境保全を推進し、自然誌分野で世界を先導するような研究機関としての機能を高め、生物多様性センターやかずさDNA研究所等との連携をより一層図ってほしい。	6	
91	千葉県立中央博物館自然誌研究報告の存続を要望する。	1	
			「千葉県立中央博物館自然誌研究報告」「NATURAL HISTORY RESEARCH」、「千葉県立中央博物館研究報告－人文科学－」は、令和2年3月刊行分より「千葉県立中央博物館研究報告」としてリニューアルしました。自然科学・人文科学分野について、原著論文、短報、総説、報告、研究ノート、資（史）料紹介などを掲載しています。

6 (4) 展示・教育普及について			
92	事業展開の 4. 人をつなげるに「②③年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施、レファレンスサービスの充実」とあるが、これを達成するためにこそ、①県民参加・協働型の活動が必要で、①も追加するべき。	1	御指摘の通り、修正しました。
93	「誰もが楽しめる施設」というのは心配。展示内容を薄くしたり、おちゃらけて表面的な楽しさを求めたりしないでほしい。	1	あらゆる人々に開かれた博物館という趣旨です。
94	体験学習室を含め、展示をリニューアルしてほしい。生態園も木々の細かな説明や周辺知識などの展示がもっと増えたら嬉しい。	2	今後策定する施設整備計画において、検討してまいります。
95	生態園やフィールドミュージアムをより発展させ、市民に還元してほしい。	5	本計画 2-3-4 「取組の方針に沿った事業展開」において、生態園やフィールドミュージアム等で自然と歴史、文化を五感で体感できる活動を実施していく予定です。
96	体験型で楽しく興味を持たせる施設が欲しい。	2	今後の取組の中で参考とさせていただきます。
97	全てに音声ガイドをつけるのは難しくても、パネルの文字を太ゴシックなどフォントで工夫して読みやすくしてほしい。	1	
98	友の会を再興してほしい	2	
99	地域に密接な博物館を目指し、ボランティアの活用や地域の方が通いたくなるような企画の充実をしていただくよう期待する。	1	

100	市民教育や市民科学のゆりかごとしての視点・役割を望む。博物館を中心とした、公的研究費申請の支援や研究計画作成指導、あるいは学芸員の研究プロジェクトへの市民参加を検討してほしい。中央博物館と県民や県民団体との関係を明確に盛り込み、県民主体の博物館活動を応援する意義や制度の拡充について記述すべき。	1	今後の取組の中で参考とさせていただきます。
101	企画展の県内博物館循環の継続してほしい。県内だけでなく他県との交流があってもよい。	1	
102	自然を知る機会を増やしてほしい。	1	
103	人と自然の関わり合いとしての歴史・文化を分かりやすく伝える機能を強化していただきたい。	1	
104	「市町村立博物館への支援体制の整備」とあるが、市町村立博物館の機能縮小・閉鎖への防止策・対応策となるような支援体制を望む。	1	
105	資料のデジタルデータの供用のあり方については、利用者となる研究者の意見を取り入れて工夫してほしい。学校でも宅でも学習に使うことが出来る。	1	
106	史跡・文化財の現地における標柱や看板の表示について、全県で QR コードを用いた案内システム化を進めてほしい。	1	関係部局へ意見があったことを共有してまいります。

107	千葉県環境影響評価審査会へ審査委員を派遣し、環境行政への支援を行ってほしい。	1	今後も関係機関との協力を進めてまいります。
108	観光業との連携し、成田空港やその他主要駅からの体験バスツアー、博物館ならではの宿泊体験など、立地を活かしたワクワクする案を希望。	1	文化観光施設としての役割の中で検討してまいります。
109	オンライン展示やバーチャルツアーを通じて、広く顧客にアクセスでき、リアル体験と連携したツアー企画を希望。	1	本計画2-3-4「取組の方針に沿った事業展開」の【3】展示・教育普及の「情報をつなげる」にあるとおり、ウェブコンテンツ等の充実に取り組んでまいります
110	市民教育サービス提供、環境資源に支えられた観光や産業、豊かな歴史や環境資源にもとづく【千葉県のイメージや存在感認知の向上】に寄与する博物館運営戦略が必要。	1	本計画2-3-3「目指す姿」に「千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館」を掲げ、取り組んでまいります。
111	小学校の郊外学習でも利用できるような魅力ある博物館作りをしてほしい。先生方の研修も不可欠。	1	本計画1-3「現状と課題」の【3】展示・教育普及にあるとおり、学校教育支援を継続・強化してまいります。
112	地域の学校やコミュニティ団体と連携し、教育プログラムやイベントを共同で開催し、デジタルスキルを含めた人材育成を希望。	1	本計画2-3-3「取組の方針」に「未来につなげる」と掲げており、人材育成についても取り組んでまいります。
113	情報発信が足りない。情報を県民に広く、素早く公開し、県民共有の知的財産として活用するような施策の立案を望む。また、研究成果を広く発信する意義、必要性を明示すべき。幼児から高齢者の方々までが、また行きたい、博物館で学びたいといった学習活動のコミュニティができるような情報発信を望む。	8	本計画2-3-4「取組の方針に沿った事業展開」の【3】展示・教育普及の「情報をつなげる」にあるとおり、情報の迅速な発信等に取り組んでまいります。

114	多くの外国人が博物館を訪れるようになるための【国際的視野に基づく情報発信】のあり方について検討してほしい。	1	本計画 2-3-4 「取組の方針に沿った事業展開」の【3】展示・教育普及の「3-①②「情報のわかりやすい形で発信」に「国内外への」を追加しました。
115	生態園の魅力をもっと外部にアピールしてほしい。	3	今後の取組の中で参考とさせていただきます。
116	YouTube 等で展示物や研究、イベント等を定期的に配信したり、職員の人柄を知る機会を増やすなど今迄とは違う取り組みを通して博物館を存続させる事に期待したい	1	
117	ホームページを充実してほしい。講座や展示予定が HP にのるのが遅い。	1	御指摘をふまえ、改善します。
118	館内が暗すぎる。	1	今後策定する施設整備計画において、検討してまいります。
7 運営体制について			
119	既存スペースや人員のやりくりでは実現でない計画なので、必要な施設や設備、予算、人員配置の強化・確保について記載すべき。	21	今後策定する施設整備計画等において、検討してまいります。
120	「自然誌・歴史研究部」と「生態・環境研究部」を館運営の両輪としてすすめ、県の環境行政を支える力となってほしい。	4	本計画 1-4 「これからの県立博物館」にあるとおり、収集・保管、調査・研究、展示・教育普及を根幹として活動を展開してまいります。
121	各職員の専門性をより活かした環境づくりのための、適材適所な人事配置の重視と、不要な人事異動を減らす取り組みの推進について加筆、検討をお願いしたい。	1	持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。
122	組織改編が利用者目線と未来に対する責任という目線で議論されることを期待する。	1	

123	これまでどおりの科学研究に従事できる体制をとってほしい。今後も高い専門性を持つ学芸スタッフの人員と質の確保してほしい。2-3-5「運営体制」の項において、「質の高い研究組織を維持ないし強化し、かつ他機関や地域との連携をとれる体制作り」を明言すべき。	11	本計画2-3-4「取組の方針に沿った事業展開」の【2】調査・研究の1-②にあるとおり、全国レベル、国際レベルの研究に取り組んでまいります。事業を着実に展開できるよう持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。
124	人文系と自然系それぞれの専門性を活かしつつ、適切に連携できるようなグラデーショナルでバランスのある人材配置やプロジェクトを実施し、自然や歴史を連携させた研究機関・調査機関としての充実してほしい。	2	県立の総合博物館として、自然系、人文系両分野がより発展していけるよう、取り組んでまいります。
125	資料整理、研究のための人材の確保について、博士課程修了直後や定年退職後に所属が無い研究者に所属を提供する代わりに資料の整理分析や研究教育への参加をお願いしてはどうか。	1	本計画2-3-4「取組の方針」の「人をつなげる」において、県民等と協働した活動に取り組んでまいります。
126	人文系の人員補充について、現代の生活史(戦後の昭和、平成、令和史)を専門とする人員がいてもいいかもしれない。	1	
127	館長には、高い専門性を有し、館運営をリードできる人を選任すべき。博物学や美術に造詣の深いマネジメント力のある人物を当てるなどの対策が必要。	4	今後の取組の中で参考とさせていただきます。
128	「自然誌」、これからの「自然環境」を考える分野についての、予算と人員の充実が必要。	3	持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。

129	現行の潮流である予算・職員削減を図る再編にならないようにしてほしい。学芸員、研究者を安定雇用し、学術文化都市としての千葉県を維持、発展を願う。	4	持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。
130	現状、県単の予算不足のため、外部資金の獲得に依存していたり、設備の老朽化などが生じているのではないか。運営のための金銭面の対策が今すぐ必要。	4	今後策定する施設整備計画において、検討してまいります。
131	老朽化した既存施設の修理や更新を行ってほしい。	9	
132	【さまざまな調査研究主体の統合的運営拠点】となるための組織と人材づくりの展望が必要。	1	本計画2-3-4「取組の方針」の「人をつなげる」において、県民等と協働した活動に取り組んでまいります。
133	時代の変化に即応できる組織構造とハード設計が必要。	1	持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。
134	「つながり」がキーワードとなっているが、こうした役割を担う組織としては、究極的には自前の（大規模な）展示施設や収蔵資料を持たない、熊本県博物館ネットワークセンターのような組織の方が適しているのではないか。	1	本計画2-3-3「取組の方針」の大切にしている価値観にあるとおり、ネットワークの拠点となることだけでなく、資料やフィールドも大切にしていきます。両者を両立できる博物館を目指していきます。
135	研究部の廃止・縮小が行われると聞いた。強く反対。研究員の雇用と環境整備を第一に考えてほしい。	9	本計画1-4「これからの県立博物館」にあるとおり、収集・保管、調査・研究、展示・教育普及を根幹として活動を展開してまいります。
136	研究部を廃止するといった内容が誤解であるならば、博物館の調査・研究の今後の進め方やそれを行うための組織図について改めて詳細に纏めて説明する必要がある。	1	持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。

137	「自然誌・歴史研究部」から「自然誌・歴史」を削り、「生態・環境研究部」を廃止して「事業部」とし、5つの研究科を統廃合して1つの研究科にすること、展示・収蔵機能を新設する事業部に移し、研究部と切り離すことに反対。	3	
138	新たに「文化」を加えて刷新を図ろうとする余り、組織の変革とそれを構成する研究員の大幅な異動が行なわれるように聞いた。組織を先に決めて、人員配置をするのではなく、これまで積み重ねてきた研究を阻害することなく、旧態依然の研究方法の改革、積極的なデジタル技術の導入で、研究成果の「見える化」をしていくことが必要。	1	自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化し、県立の総合博物館の機能を強めていきます。 また、持続的な運営体制の構築に取り組んでまいります。
8 計画策定のプロセスについて			
139	今回の計画案以外で千葉県内の博物館について討論される場があったのならそちらについての情報も併せて確認できる場を作ってほしい。	1	今回の計画以外で、県内博物館について討論する場は設けておりません。
140	博物館の方針に関わる協議・合意形成のプロセスを記述すべき。	3	本計画の最終ページに策定までの経緯を追加しました。
141	県民の意見をもっと早い段階で取り入れて計画をつくるべきだった。市民やコミュニティとの対話を密に行い、計画内容を順応的に修正できるようなくみ（多様な主体が参画する会議や博物館協議会のようなものの設置）も検討すべきではないか。	6	評価制度についても見直してまいります。

142	将来ビジョン構築には行政側（ミュージアムの管轄部署）・当該館（中央博）・有識者・県民が一体となった形で構築していくフローが必要	2	博物館職員とは随時意見を交換し、有識者会議を3回実施した上で、県民からの意見を取り入れるために今回のパブリックコメントを実施しております。
143	計画策定には博物館は関われなかったと聞いたが、現場の学芸員の意見を取り入れるべき。	4	博物館職員と随時意見を交換し、作成しました。なお、本計画の最終ページに策定までの経緯を追加しました。
144	計画の作成は中央博が行うべき。有識者会議の主催者であるべき中央博物館の館長がなぜオブザーバーなのはおかしい。	2	中央博物館をはじめ関係博物館の館長は事務局として出席しております。なお、本計画の最終ページに策定までの経緯を追加しました。
145	数回の外部有識者を加えた会議があったようだが、委員の詳細も明らかにされていない。まず審議委員会の組織案を提示し、それに対する意見を求めることから始めるべきではないか。	1	全3回の有識者会議（千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会）を、傍聴可能な公開会議として実施しました。また、委員の詳細や議事録は県ウェブサイトから確認できます。なお、本計画の最終ページに策定までの経緯を追加しました。
146	博物館の見直しを計画するにあたって、有識者会議のメンバーに、博物館の職員や県民、中央博とのかかわりが深かった県内有識者をいれるなど、県民や県内の博物館関係者を多数活用するべき。	5	県内博物館関係者として千葉県博物館協議会に意見を伺いながら、計画を作成しました。なお、本計画の最終ページに策定までの経緯を追加しました。
147	なるべく多くの分野をカバーする専門家から意見聴取を行い、計画の補完や修正をしてほしい。さらにその状況が逐次県民にも適切に公開されることを望む。	3	有識者会議および千葉県博物館協議会において、幅広い専門分野の委員から意見をいただきながら、計画を作成しました。なお、本計画の最終ページに策定までの経緯を追加しました。

9 その他			
148	学芸振興室は、「中央博の“組織再編”計画は、館内でしっかり議論されたもの」と、述べた。しかしそれは、中央博館の「人文系職員と行政幹部で作成されたもので、自然系職員はカヤの外」とのこと。	2	博物館とも協議し、他県の先進的な事例なども参考にして、持続可能な運営体制を構築したものです。
149	学芸振興室は「中央博の「組織再編」について今年3月に発表する」とのこと。「組織再編」は、「千葉県立中央博物館機能強化実施方策（令和5年3月）」に明記されているが、この「機能強化方策」は、責任の所在が不記載。行政的には、私的メモに相当する。	2	「千葉県立中央博物館機能強化実施方策」は「在り方」に基づいて、中央博物館の強化すべき機能を整理したものです。
150	「組織運営は県民の意見を聞くべきものではない」と回答したのは誰か。	3	県の組織については、県の施策を着実に推進するため、見直しを行うものです。